

1200万署名・NPT代表派遣 News

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031 FAX:03-5842-6033

Eメール antiatom55@hotmail.com 2010年2月22日 No.32 NPTまであと71日

2010年3・1ビキニデー日本原水協集会国際交流フォーラムまであと5日

全戸訪問で島民の30%が署名

真鍋島署名ツアーを実施ー岡山県笠岡市

笠岡市の「署名をすすめる市民の会」は2月20日、真鍋島へ“署名ツアー”に出かけました。真鍋島は瀬戸内海にある笠岡有人6島の1つで、笠岡港から海上20Kmの島。人口300人の過疎と高齢化の進む島です。「全市民を対象とする署名行動だから出かけよう」とこの日の行動になりました。

一行10人は午前10時、貸切海上タクシーをチャーターし、島に渡り全戸訪問を行いました。空き家や留守が多く大変でしたが、1時間半の行動で91筆(全住民の30%)を集めることができました。「市長がよびかけている署名ですよ」と訴えると快く署名に応じて下さり、対話したほとんどの人から署名が寄せられました。



真鍋島署名ツアーの参加者(2月20日、岡山県笠岡市の真鍋島港)

笠岡市で署名運動の中心になって頑張る樋之津倫子市議は28日の日本原水協集会全国集会で市民ぐるみの署名運動についてプロジェクターで写真を写しながら報告することになっています。

若者は世界見る目を養ってほしい ビキニデー北海道集会で大石さん講演

「被曝者への差別と偏見の中で、15年間隠れていました。原水爆の被害は過去の問題ではないと分かって、事件を口にするようになりました」-3・1ビキニデー北海道集会在2月19日、札幌市内で開かれ、ビキニ事件で被災した第五福竜丸元乗組員の大石又七さん(76)が講演しました。同集会実行委員会が主催し、60人が参加しました。

大石さんは漁船の乗組員として、ビキニ環礁で水爆実験の被害を受けた様子を告発。放射能被害の実態や、事件後の政府の対応を批判した大石さんは「私たちが受けた体験は、人類全体のものです。当事者が言わなければならないと口を開きました」「戦争だけはどんなことがあっても起こしてはならない。次代を担う若い人は世界を見る目を養ってほしい」と語りました。

講演に先立ち、原水爆犠牲者と戦争犠牲者への追悼が行われました。浄土寺(札幌市)の佐々木光明住職ら3人の僧侶が読経する中で、参加者は献花台に花を手向けました。

主催者あいさつをした北海道宗教者平和協議会の山本光一牧師は「宗教者はかつて、積極的に戦争協力をしてきた歴史があります。一人の宗教者として責任を覚えながら平和活動を続けています」と語りました。

被爆の実態を伝える札幌青年の会「FoRP」が、参加者を中学生に見立ててビキニ事件についての模擬授業を行い、3・1ビキニデー全国集会に参加する北海道代表4人が紹介されました。



最新情報はコチラ 原水協通信 blog | <http://www.antiatom.org/g-news/>
携帯電話からもアクセスできます。